



独立行政法人日本学術振興会

学術国際交流事業の概要

日本学術振興会 国際統括本部
国際企画課長 中塚 淳子

学術研究（大学等の研究者の自由な発想に基づく人文・社会科学から自然科学までのあらゆる分野の研究）を総合的に支援する我が国唯一の資金配分機関（ファンディングエージェンシー）

＜研究者の自由な発想に基づく学術研究を支援するとともに、大学改革を支援＞

◆大学改革支援

- ・世界トップレベル研究拠点プログラム
- ・博士課程教育リーディングプログラム
- ・大学教育再生加速プログラム
- ・大学間連携共同教育推進事業
- ・地(知)の拠点大学による地方創生推進事業
- ・スーパーグローバル大学等事業
- ・大学の世界展開力強化事業

日本学術振興会(JSPS)

公平・公正で透明性の高い
審査・評価の実施

学術システム研究センター

プログラムディレクター 6人
プログラムオフィサー 128人(H30.4)

選考

審査委員 約10,000人

●研究者支援 ()内はH30予算額

➤研究助成(2,286億円)

- ・科学研究費助成事業

* 平成30年度助成額は、対前年度2億円の増。

➤研究者養成(179億円)

- ・特別研究員(H30年度新規採用)2,207人
- ・海外特別研究員(H30年度新規採用)173人

➤国際交流(62億円)

- ・海外学術振興機関との協力による国際共同研究等
- ・若手研鑽シンポジウム(HOPEミーティング等)
- ・外国人研究者招へい・ネットワーク強化
(外国人特別研究員等)
- ・海外研究連絡センター(9ヶ国10カ所)

研究者の自由な発想

人文学・社会科学から自然科学まで全ての学問分野

研究所

大学

大学共同利用機関

研究者

学術の国際交流促進に向けた取り組み

➤ 諸外国の学術振興機関との協力による国際的な共同研究等の促進 (p.4 -)

研究者の自由な発想に基づく国際共同研究を、原則として全分野を対象に、ピアレビューに基づく審査を経て支援する。

➤ 研究教育拠点の形成支援 (p.8 -)

先端的かつ重要な研究課題、または地域における諸課題解決に資する研究課題について、我が国と世界各国の研究教育拠点機関をつなぐ持続的な協力関係を構築する。

➤ 若手研究者への国際研さん機会の提供 (p.11 -)

新進気鋭の若手研究者に世界トップレベルの国際経験を積む機会を提供することで、次世代のリーダーとなる若手研究者の育成や国際的研究者ネットワークの拡大・強化を図る。

➤ 外国人研究者の招へい (p.17 -)

研究者のキャリアステージ・目的に沿った多様なプログラムにより、優秀な外国人研究者を効果的に我が国に招へいする。

➤ 学術国際交流の基盤・ネットワークの強化 (p.20 -)

日本学術振興会事業経験者等の組織化を図り、諸外国との研究者ネットワークの形成・維持・強化を図るとともに、諸外国との学術振興機関長会議の開催、海外研究連絡センターの設置など、多様な国際交流事業の円滑な実施のための基盤を整備し、国際的な信頼関係を醸成する。

諸外国の学術振興機関との協力による国際的な共同研究等の促進

事業名	概 要	担当課
二国間交流事業	諸外国の学術振興機関（34カ国46機関）との覚書等に基づき、二国間で実施される共同研究、セミナー等を支援。平成25年度より、覚書に基づかない二国間の研究交流の支援枠組みを新たに開始 （オープンパートナーシップ共同研究・セミナー） ①共同研究・セミナー ②研究者交流（派遣・受入）	①研究協力第二課 ②人物交流課
国際共同研究事業	海外の学術振興機関との連携のもと、我が国の大学等の優れた研究者が海外の研究者と協力して行う国際共同研究を支援 ○英国との国際共同研究プログラム（JRPs-LEAD with UKRI） ○ドイツとの国際共同研究プログラム（JRPs-LEAD with DFG） ○スイスとの国際共同研究プログラム（JRPs） ○国際共同研究教育パートナーシッププログラム（PIRE） ○国際化学研究協力事業（ICC） ○欧州との社会科学分野における国際共同研究プログラム（ORA）	国際企画課

二国間交流事業

①諸外国の学術振興機関との覚書・協定等に基づき、当該国と我が国の研究者間で実施される共同研究、セミナー及び研究者交流（派遣・受入）を支援。

【支援内容】

共同研究：1～3年間、1課題あたり100～250万円以内／年度

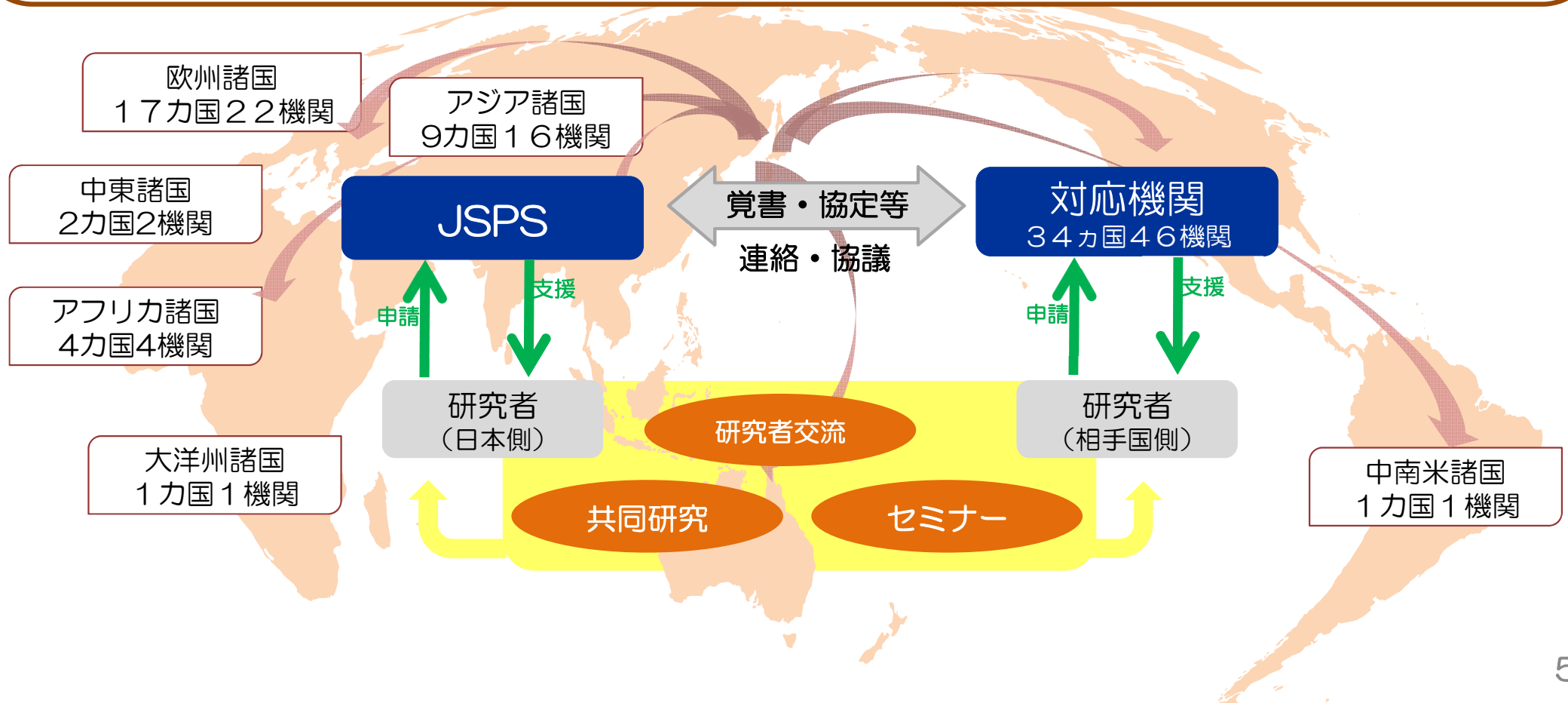
セミナー：1週間以内、1セミナーあたり120～250万円以内

研究者交流：14日～2年間、往復航空賃、滞在費等支給

【平成31年度募集スケジュール】

募集要項公開中

平成30年8月22日（水）～9月5日（水）申請
受付



二国間交流事業

②オープンパートナーシップ 共同研究・セミナー（平成25年度分より募集開始）

諸外国の学術振興機関との覚書・協定等に基づかず、我が国と国交のある全ての国を対象とし、当該国と我が国の研究者間で実施される共同研究、セミナーを支援。

- ・我が国と国交のある全ての国を対象（台湾、パレスチナはこれに準じて取り扱う）
- ・人文学・社会科学及び自然科学にわたる全分野を対象
- ・JSPSは日本側研究者に係る経費のみ負担。相手国研究者は自らの交流経費を相手国側の学術振興機関等から得ることを奨励。

【支援内容】

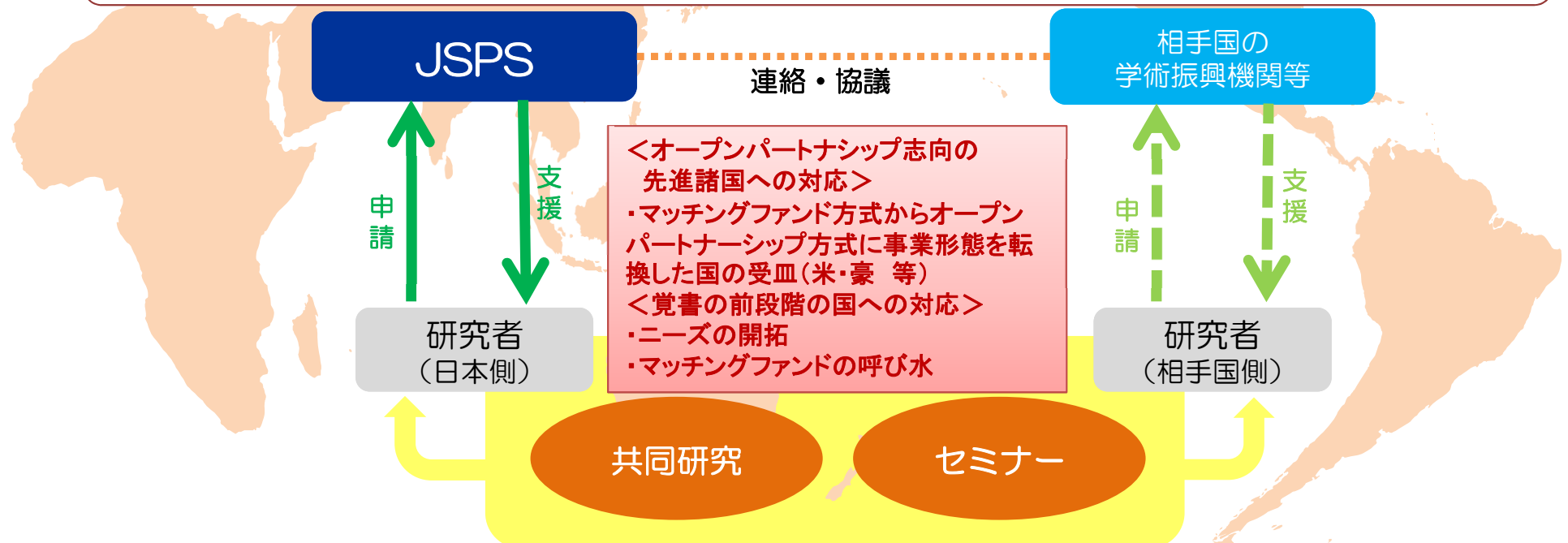
共同研究： 2年以内、1課題あたり200万円以内／年度
セミナー： 1週間以内、1セミナーあたり200万円以内

【平成31年度募集スケジュール】

募集要項公開中

平成30年8月22日（水）～9月5日（水）申請受付

我が国と国交のあるすべての国を対象

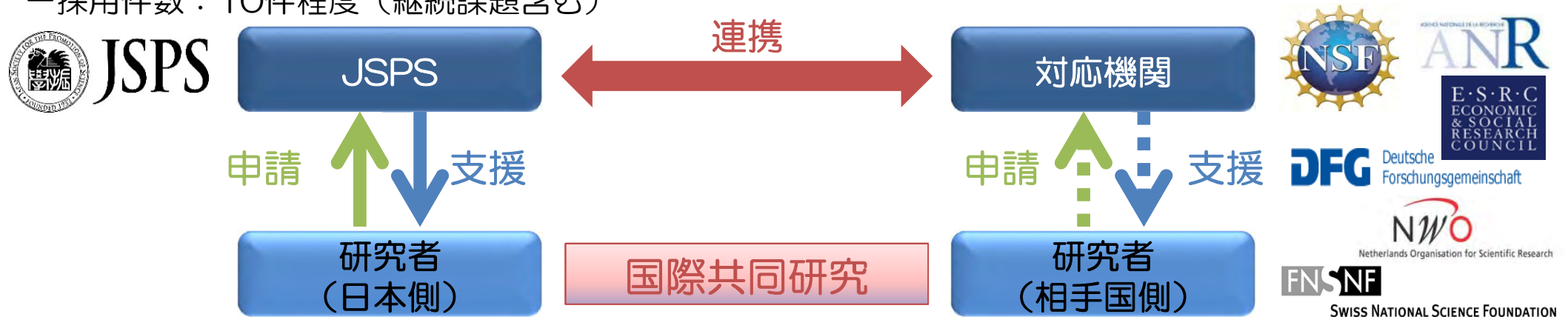


国際共同研究事業

■概要

学術研究活動のグローバルな展開に対応するため、海外の学術振興機関との連携のもと、我が国の大学等の優れた研究者が海外の研究者と協力して行う国際共同研究を支援。

- －支援内容：研究経費（物品費、旅費、人件費（ポスドク・若手研究者の参加を奨励）、その他）
- －支給経費：1,000万円程度／年／件
- －採用期間：2～5年
- －採用件数：10件程度（継続課題含む）



	プログラム名	対象国	分野
二 国 間	英国との国際共同研究プログラム（JRPs-LEAD with UKRI）平成30年度より新規実施	英国	生命科学、環境科学
	ドイツとの国際共同研究プログラム（JRPs-LEAD with DFG）平成30年度より新規実施	ドイツ	地球科学
	スイスとの国際共同研究プログラム（JRPs）平成28年度～平成31年度分公募を実施	スイス	人文学、社会科学、自然科学にわたる全分野を2回に分けて公募
	国際共同研究教育パートナーシッププログラム（PIRE）平成24年度～	アメリカ	社会科学、自然科学にわたる全分野
多 国 間	欧州との社会科学分野における国際共同研究プログラム（ORA）平成27年度～平成30年度分公募を実施	フランス, ドイツ, イギリス, オランダ	社会科学

研究教育拠点の形成支援

事業名	概 要	担当課
研究拠点形成事業 (A. 先端拠点形成型)	世界的水準の研究交流拠点の構築を目的として、世界各国の研究機関との協力関係による実施する共同研究・セミナー等の活動を支援 【対象国】 我が国と国交のある2か国以上 【募集分野】 全分野	研究協力第一課
(B. アジア・アフリカ 学術基盤形成型)	アジア・アフリカ地域における諸課題の解決に資するため、アジア・アフリカ諸国の研究機関と実施する共同研究・セミナー等の活動を支援 【対象国】 アジア・アフリカ諸国2か国以上 【募集分野】 全分野	
日中韓フォーサイト事業	日中韓の学術振興機関が共同で、世界トップレベルの研究拠点の構築を目的として実施する共同研究・セミナー等の活動を支援 【対象国】 韓国・中国 【募集分野】 3か国の機関長が重要と認めるテーマ（毎年異なる）	

研究拠点形成事業

A. 先端拠点形成型

相手国側でのマッチングファンド必須

研究対象

我が国において先端かつ国際的に重要と認められる研究課題

主たる相手国

我が国と国交のある2か国以上

事業概要

支援経費 1件あたり1800万円以内/年
研究期間 5年以内
採択件数 8件程度/年

B. アジア・アフリカ学術基盤形成型

研究対象

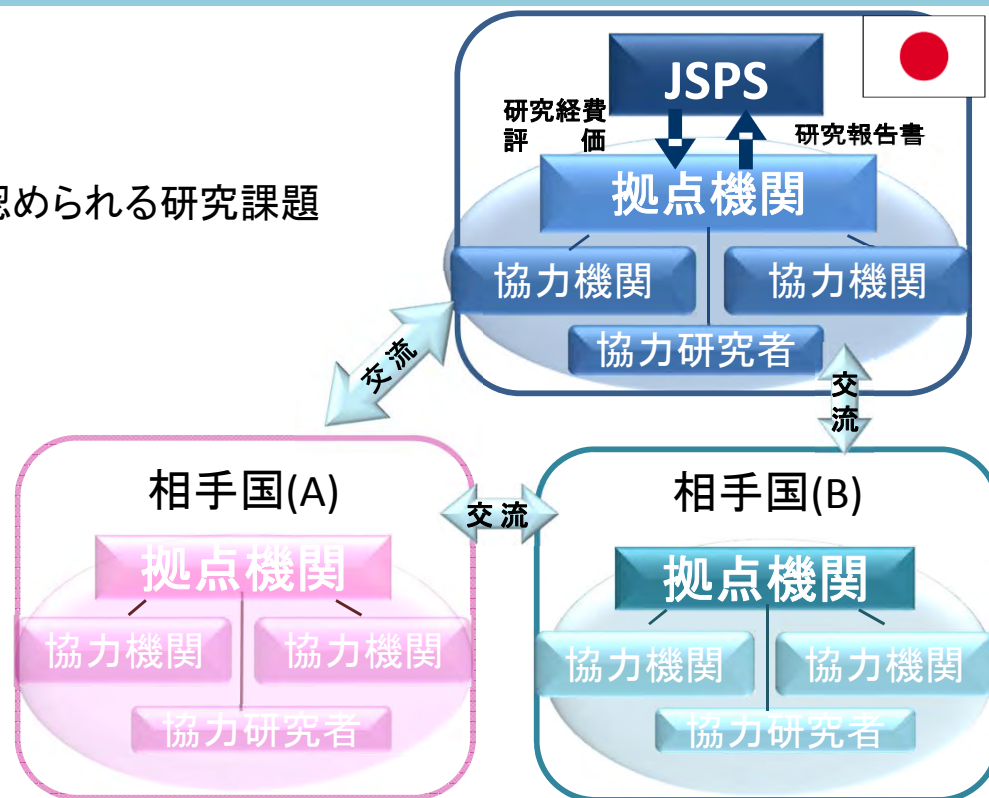
アジア・アフリカ地域において
特有、又は特に重要と認められる研究課題
であり、かつ、
我が国が重点的に研究することが有意義と
認められる研究課題

主たる相手国

我が国と国交のあるアジア・アフリカ諸国2か
国以上

事業概要

支援経費 1件あたり800万円以内/年
研究期間 3年以内
採択件数 10件程度/年



【活動形態】

共同研究： 相手国側研究者と共同で特定の研究課題を推進。

セミナー： 研究成果の発信・評価・取りまとめ及び海外の先端的
学術情報の収集の場として、シンポジウム・セミナー等
を開催。

研究者交流： 相手国側拠点機関と研究者の派遣・受入等を実施。

【平成31年度募集スケジュール】

募集要項公開中

平成30年9月5日(水)～10月1日(月)17:00申請受付

日中韓フォーサイト事業

我が国と中国、韓国の研究機関が連携して、アジア地域に世界的水準の研究拠点を構築し、持続的な活動を実施することを支援

目的

- ・世界トップレベルの学術研究、地域共通の課題解決に資する研究支援
- ・次世代の中核を担う優秀な若手研究者の育成

研究対象

3カ国の実施機関の協議により重要と認められる研究課題

対象分野(過去3年度分):

新材料イノベーション(H30)、分子イメージングに基づくプレジジョンメディシン(H29)、ケミカルバイオロジー(H28)、オートファジー:分子から病態まで(H27)

相手国(実施機関)

中国(中国国家自然科学基金委員会, NSFC)

韓国(韓国研究財団, NRF)

事業概要

支援経費 1件あたり5年間で5,000万円以内

研究期間 5年間

採択件数 2件程度/年

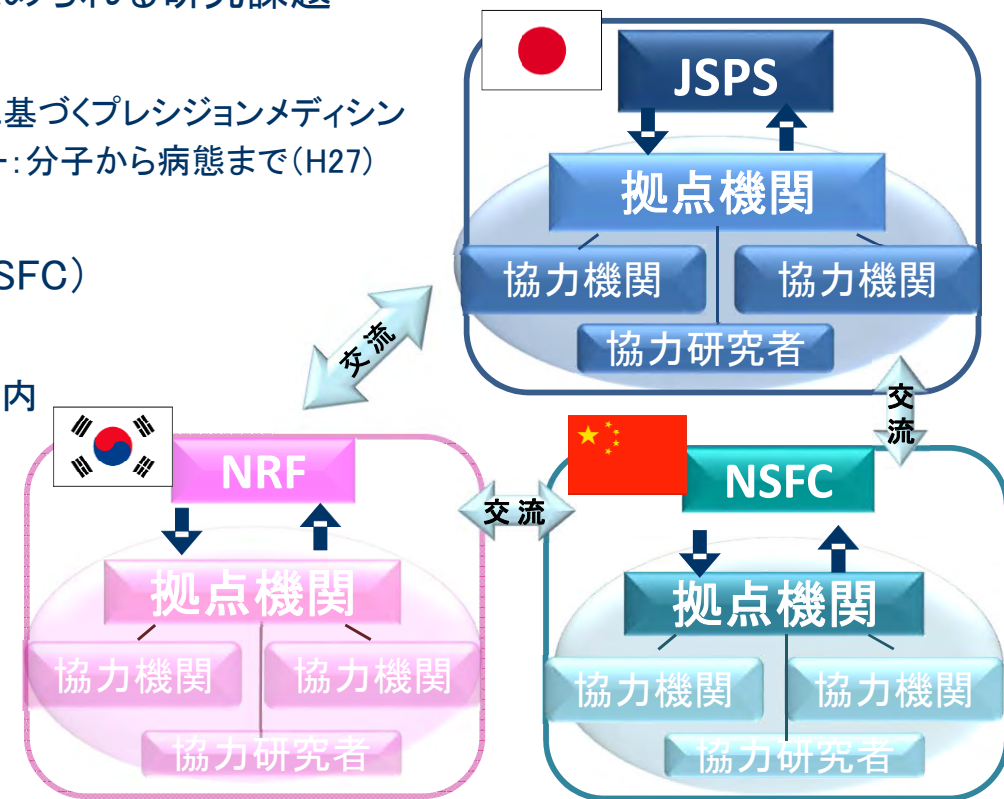
* 日中韓3カ国の実施機関間の覚書に基づき実施

【活動形態】

共同研究: 相手国側研究者と共同で特定の研究課題を推進。

セミナー: 研究成果の発信・評価・取りまとめ及び海外の先端的学術情報の収集の場として、シンポジウム・セミナー等を開催。

研究者交流: 相手国側拠点機関と研究者の派遣・受入の実施。



【平成31年度募集スケジュール】

平成30年11月頃募集要項公開(予定)

平成31年1~2月申請締切(予定)

若手研究者への国際研さん機会の提供

事業名	概 要	担当課
ノーベル・プライズ・ダイアログ	若手研究者を含む一般市民が、国内外のノーベル賞受賞者・著名研究者・有識者の講演を聴き、対話を行うシンポジウム	研究協力第一課
HOPEミーティング	ノーベル賞受賞者等とアジア・太平洋・アフリカ地域の博士大学院生等が交流する合宿形式の会議	
リンダウ・ノーベル賞受賞者会議 派遣事業	リンダウ会議に日本からの参加候補者を推薦すると共に、参加にかかる経費を支援	
先端科学（FoS）シンポジウム	日本と諸外国の優秀な若手研究者が、最先端の科学トピックについて分野を超えて討議する合宿形式のシンポジウム	

若手研究者への国際的な研さん機会の提供②

【対象・レベル】

～准教授・教授

発信から
→ 創造へ

自ら発信し新領域を創造するレベルまで国際経験を発展

先端科学（FoS）シンポジウム

人文・社会科学から自然科学までの先端的なトピックについて、分野横断的な議論の機会を提供する合宿形式のシンポジウム

◆異分野交流を端緒とした
新領域の開拓
◆幅広い視野をもつ次世代の
研究リーダーの育成

ポスドク

講義から
→ 議論へ

様々な国の同年代の研究者と出会う本格的な国際経験のスタート

HOPEミーティング

リンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣

ノーベル賞受賞者等の著名研究者との議論、同年代の仲間達とのネットワーク構築の機会を提供する合宿形式の会議

◆ノーベル賞受賞者等の著名研究者や同世代の研究者との交流による刺激

大学院生

講演から
→ 対話へ

大学生

未来の研究者がノーベル賞受賞者と対話する国際経験のイントロダクション

ノーベル・プライズ・ダイアログ

大学生等の未来の研究者及び若手研究者を含む一般市民が、国内外のノーベル賞受賞者・著名研究者・有識者の講演を聴き、対話を行うシンポジウム

◆科学技術・学術への理解増進

ノーベル・プライズ・ダイアログ

概要

ノーベル賞受賞者をはじめとした有識者と一般との対話を目的としたシンポジウムを開催。

ノーベル財団広報部門がスウェーデンにおいて2012年より、ノーベル賞受賞式の時期に合わせて同様のイベントである「ノーベル・ウィーク・ダイアログ」を開催。2015年には、スウェーデン国外ではじめて日本において「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京」を開催。

平成29年度は、日本スウェーデン外交関係樹立150周年にあたることを踏まえ、日本で3回目の「ノーベル・プライズ・ダイアログ」を開催。

目的

ノーベル財団と連携し、アジアを中心とする国内外の若手研究者を含む一般に対し、科学との対話（ダイアログ）の機会を広く提供する。

支援内容・形態

【主催】日本学術振興会、ノーベル・メディアAB 【参加費】無料

日時	テーマ	講演者数
第1回 2015年3月1日	The Genetic revolution and its Future Impact 生命科学が拓く未来	25名（うち、ノーベル 賞受賞者7名）
第2回 2017年2月26日	The Future of Intelligence 知の未来～人類の知が切り拓く 人工知能と未来社会～	36名（うち、ノーベル 賞受賞者5名）
第3回 2018年3月11日	The Future of Food 持続可能な食の未来へ	30名（うち、ノーベル 賞受賞者5名）

↓ノーベル賞受賞者を含む有識者による講演



ノーベル受賞者によるディスカッション↓



←外国人を含む一般聴衆からの質疑

実績

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京の成功については、2015年12月のノーベル賞授賞式においてノーベル財団理事長の冒頭挨拶でも言及。第2回、第3回とも1,000名以上が参加し、参加者アンケートではいずれも約95%が「また参加したい」と回答した。

HOPEミーティング - ノーベル賞受賞者との5日間 -

目的

専門分野を超えた広い学際的視野を持ち多様な文化を理解することができる若手研究者を育成するとともに、アジア・太平洋・アフリカ諸国から集まった優秀な参加者の間の将来にわたるネットワークを形成する。

概要

ノーベル賞受賞者等の世界のトップクラスの研究者と、アジア・太平洋・アフリカ地域の優秀な若手研究者による合宿形式の「知」の交流を支援。著名研究者による講演やグループディスカッション、若手研究者による研究発表等を通じ、知識の吸収のみならず、自ら発信する力、異分野・異文化の仲間との協力関係を構築する。

平成18年に科学技術振興調整費で開始。その後参加国数・人数を拡大し、平成30年は21カ国から108名の若手研究者が日本に集結。

支援内容・形態（支援対象・条件を含む）

◎第11回HOPEミーティング（予定）

【運営委員長】梶田隆章氏(2015年 物理学賞)

【期 間】平成31年3月4～8日（沖縄）

【講演者】ノーベル賞受賞者7名程度

【参加者】アジア・太平洋・アフリカ地域から選抜された優秀な大学院博士課程学生・若手研究者（博士課程もしくは博士課程修了後5年程度）

※日本選出参加者募集要項公開中（締切：平成30年8月8日）

第10回HOPEミーティング

【運営委員長】小林誠先生（2008年ノーベル物理学賞）

【期 間】平成30年3月12日～3月15日

【主な講演者】

小林誠氏(2008年 物理学賞)、ゲオルグ・ベドノルツ氏(1987年 物理学賞)、梶田隆章氏(2015年 物理学賞)、バリー・シャープレス氏(2001年 化学賞)、アダ・ヨナット(2009年 化学賞)、フレイザー・ストッダート氏(2016年 化学賞)、ティム・ハント氏(2001年 生理学・医学賞)



実績

第1回HOPEミーティングで13か国、81人だった参加国数・人数が、第10回開催時には、21か国、108人に拡大。
（これまでアフリカからはエジプト・南アフリカ・ケニアが参加。第9回からは新たにネパールから参加）



リンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣事業

概要

リンダウ・ノーベル賞受賞者会議評議会及びリンダウ・ノーベル賞受賞者会議基金との協定に基づき、「**リンダウ・ノーベル賞受賞者会議**」への**日本からの参加候補者を推薦**するとともに、参加に係る**旅費等の経費を支援**する。（JSPSでは平成21年度から派遣開始）

「**リンダウ・ノーベル賞受賞者会議**」とは、世界各国の若手研究者の育成を目的として1951年に開設。毎年リンダウ（ドイツ南部）において一週間程度の日程で開催。毎回約30名のノーベル賞受賞者が招かれ、各国から集った若手研究者600人に対して講演を行うとともに、参加者とのディスカッションに応じる。若手研究者にとっては、**受賞者との密な交流により大きな知的刺激を受ける**と同時に、**海外研究者とのネットワークを形成**する絶好の機会。

目的

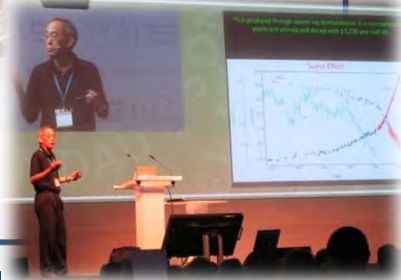
- ・**世界最高水準の研究者との対話の機会、世界各国から集う優秀な若手研究者との人的ネットワークを形成する機会**を提供
- ・我が国における学術の将来を担う**国際的視野、経験に富む優秀な研究者を育成**

支援内容・形態

（申請資格） **博士後期課程学生又はポスドク研究者**（博士の学位取得後5年以内の者）
日本国籍を持つ者又は我が国に永住を許可されている外国人
会議開催時に**35歳以下**で、過去に本会議に参加したことがないこと

（支援経費） 所属機関から会場までの往復交通費、会議参加費

（推薦予定数） ① 物理学、化学、生理学・医学分野（毎年この順に実施）：12名以内
② 経済学分野（2年ごとに実施）：4名以内
③ 3分野合同会議（物理学、化学、生理学・医学）（5年ごとに実施）：15名以内
※ ただし、①と③、②と③は同一年には開催されない。



実績

JSPS推薦による日本からの参加者 計112名（平成21～29年度）

参加者の声：世界最高峰の科学者たちとの交流では専門分野、あるいは科学の枠組みを超えた広い視野、深い思想に触れることができる

平成30・31年度開催について

生理学・医学：平成30年6月24日～29日

物理学：平成31年6月30日～7月5日（予定）

※平成31年度分参加者募集開始（締切：平成30年8月10日）

先端科学 (FoS) シンポジウム



概要

日本と諸外国の卓越した若手研究者を対象として、様々な研究領域における最先端の科学トピックについて、分野横断的な議論を行う合宿形式のシンポジウムを実施。

「**先端科学 (FoS) シンポジウム**」1989年に米国科学アカデミー(NAS)が開始。2016年までに米国のFoS参加者から12名のノーベル賞受賞者を輩出。日本では、1998年に米国NASと科学技術振興事業団の共催で開始。2016年までに米、独、仏、英、カナダとFoSを共催し、1162人の若手研究者が参加。2017年は、いずれも初めての試みとなる日米独3カ国でのFoS及びカナダとのFoSを開催。

目的

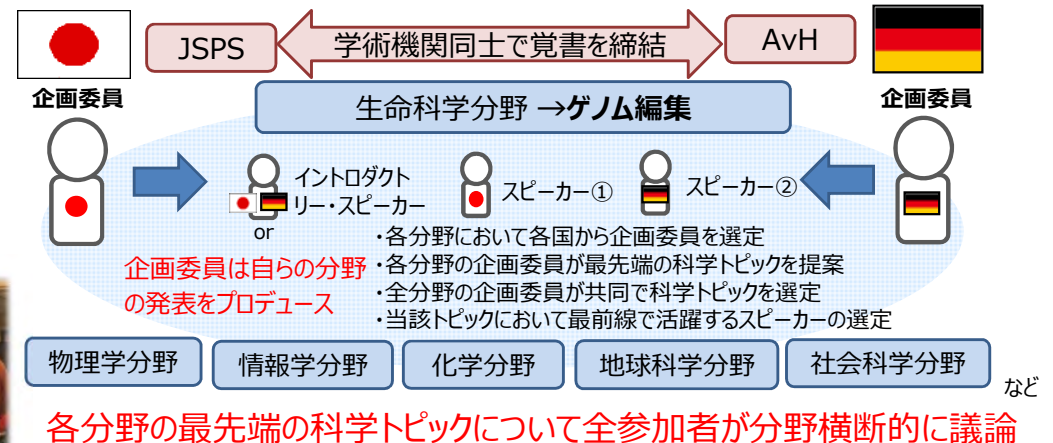
卓越した若手研究者を一同に集め、分野横断型の議論を実施することで、新しい学問領域を開拓するとともに、将来指導的立場に立ち、国際舞台で活躍できる次世代の研究リーダーを育成。また、国際共同研究のきっかけとなる、人的ネットワークを形成し、我が国学術研究の国際化、質の向上に貢献。

支援内容・形態

- (参加者) 日本の大学・研究機関に所属する研究者(45歳以下or博士号取得後15年以内)
各国、各分野5名程度、全体で各国30名
- (実施形態) 3日間の合宿形式。参加者は全分野のセッションに参加。
各分野の最先端の科学トピックについて発表を聞き、
約1時間にわたり議論
- (支給経費) 渡航費、国内交通費、滞在費
- (開催地) 日本/相手国交互
- (使用言語) 英語



異分野の研究者との議論



実績



FoS参加者からノーベル物理学賞を輩出
2015年ノーベル物理学賞受賞の
梶田隆章東京大学教授は、日米FoSに
過去2回参加

(写真提供：東京大学宇宙線研究所)

リーダーとして活躍するFoS参加者の例

村山 斉
WPI Kavli IPMU(東大)拠点長
(第5回日仏FoSチェア)

伊丹 健一郎
WPI ITbM(名古屋大)拠点長
(第10回日米FoS参加)



平成31年度開催分 募集スケジュール (予定)

平成30年10月頃 推薦要項公開
平成30年12月頃 推薦受付

外国人研究者の招へい

プログラム名		内 容	担当課
外国人 特別研究員	一般	博士号取得直後の優秀な諸外国の若手研究者に対し、我が国の大学等研究機関において日本側受入研究者の指導のもとに共同して研究に従事する機会を提供するプログラム	人物交流課
	欧米短期	博士号取得前後の優秀な欧米諸国の若手研究者（特に我が国の大学等において研究に従事したことがない者が望ましい）に対し、比較的短期間、我が国の大学等研究機関において日本側受入研究者の指導のもとに共同して研究に従事する機会を提供するプログラム	
	戦略的 プログラム	特定の国との間で、特に将来が期待されている優秀な若手外国人研究者を、比較的短期間、戦略的に日本の大学等に受け入れる制度	
	サマー・ プログラム	欧米主要国の博士号取得前後の若手研究者を夏期2ヶ月間日本の大学等に受け入れる制度	
外国人 招へい研究者	長期	中堅から教授級の優秀な諸外国の研究者を比較的長期間招へいし、我が国の研究者と共同研究を行う機会を提供するプログラム	
	短期	中堅以上（教授級）の優れた研究業績を有する諸外国の研究者を短期間招へいし、我が国の研究者との討議・意見交換や講演等を通じて関係分野の研究の発展に寄与することを目的としたプログラム	
	短期S	ノーベル賞級の特段に優れた業績及び受賞歴をもち、当該分野で現在も指導的立場にある諸外国の研究者を我が国に招へいし、受入機関全体の研究活動への助言・協力及び関連するその他の学術研究機関においての講演会等を行う機会を提供するプログラム	
論文博士号取得希望者に対する支援事業		アジア・アフリカ諸国の優れた研究者が、日本の大学において大学院等の課程によらず論文提出によって博士の学位を取得できるように支援するプログラム	

外国人研究者の招へい

特徴

1. 分野・国籍を問わず、研究計画の学術的価値を重視
2. キャリアステージ・招へい目的に合わせた多様なプログラム
3. 年複数回の申請機会
4. 長期滞在者に対する日本での生活支援

研究者のキャリアステージ

博士課程学生 博士号取得 博士号取得後6年 中堅 教授 ノーベル賞受賞級

外国人研究者招へい事業 (外国人特別研究員)

一般

12か月以上24か月以内
約370名

サマー・ プログラム

夏季2か月
約100名

(推薦のみ)

戦略的 プログラム

2か月以上
12か月以内
約50名

欧米短期

1か月以上
12か月以内
約150名

外国人研究者招へい事業 (外国人招へい研究者)

長期

2か月以上10か月以内
約60名

短期

14日以上60日以内
約180名

短期 S

7日以上30日以内
数名

論文博士号取得希望者に対する支援事業

3年
約15名

招へい外国人研究者への交流支援

事業概要

我が国における研究生活がより充実したものになるよう、招へい外国人研究者に対してオリエンテーションや地域社会との交流の機会、また各種情報資料等を提供。

来日後オリエンテーション開催

(年5回)

- ◆長期間日本に滞在する若手外国人研究者対象。
- ◆来日後3か月以内に、我が国の研究システムや生活に関する情報等を得られることで、スムーズな研究生活の開始が可能に。

《H29実績》

年5回東京で開催

参加人数 約150人



きめ細かい生活支援により、
外国人研究者が、慣れない日本での研究活動に
すぐに専念できる環境を整備
(H7～(サイエンス・ダイアログはH16～))

サイエンス・ダイアログ

(H16～)

招へい外国人研究者に有志を募り、国内の高等学校等において英語で研究に関する講演を行う機会を提供する。



外国人研究者と
地域社会との交流
を支援



ポータルサイト

(JSPS Fellows Plaza) を通じた
情報提供

- ◆日本での生活に関する情報
- ◆事業経験者による体験談・アドバイス
- ◆滞在地域別・分野別の日本滞在者検索



英文ニュースレター

(JSPS Quarterly) 発行



年4回、国内外の学術関係機関や本会事業経験者に向けて、JSPS事業に関連する学術情報等を発信。
※平成30年4月より情報企画課に移管

「来日外国人研究者のための生活ガイドブック (Life in Japan)」の発行

- ◆外国人研究者招へい事業等採用者に対し、採用時に配布
- ◆webサイト上でも公開



学術国際交流の基盤・ネットワークの強化

事業名	概 要	担当課
海外研究者コミュニティ（同窓会）形成支援	フェローシップ採用期間終了後も外国人研究者間のネットワークを継続できるよう、事業経験者による研究者コミュニティのフォローアップ活動を支援。	国際企画課
JSPS Researchers Network (JSPS-Net)	研究者向けソーシャル・ネットワーク・サービス。海外において活躍する日本人研究者等のネットワーク、JSPS事業経験者を中心とした研究者コミュニティの形成を支援。	
海外研究連絡センター	9か国10か所の海外研究連絡センター等を通して、海外の学術振興機関等との連携やシンポジウムの開催、本会事業経験者や在外日本人研究者の現地でのコミュニティ形成等、日本の研究者や大学等研究機関の国際展開を現地にて支援。	
諸外国の学術振興機関との連携	諸外国の学術振興機関、振興会事業を経験した外国人研究者、振興会の海外研究連絡センターなど、国際研究支援のための多様なネットワークの形成に取り組んでいる。	

海外研究者コミュニティ（同窓会）形成支援

事業概要：JSPS事業による支援を受けた者等の組織化を図り、日本との諸外国の研究者ネットワークの形成・維持・強化を図る。

研究者コミュニティ（同窓会）設置18か国（設立年、会員数）

	ドイツ(1995年、440人)		バングラデシュ(2009年、156人)
	フランス(2003年、631人)		フィンランド(2009年、88人)
	英国(2004年、703人)		タイ(2010年、85人)
	米国(2004年、2,530人)		中国(2010年、1,331人)
	スウェーデン(2005年、159人)		フィリピン(2013年、159人)
	インド(2006年、388人)		ネパール(2015年、35人)
	エジプト(2008年、77人)		デンマーク(2015年、38人)
	東アフリカ(2008年、57人)		インドネシア(2016年、102人)
	韓国(2008年、510人)		オーストラリア(2017年、270人)

同窓会全会員数： 7,759人（2018年3月末現在）

海外研究者コミュニティ（同窓会）形成支援（平成15年度～）

- ◆ 年次総会・シンポジウム等の開催
- ◆ ニュースレターの発行、HPの管理運営
- ◆ 採用者への渡航前オリエンテーションの実施
- ◆ 再招へい事業（※）実施のための公募・選考等

※JSPS海外研究連絡センターとの密接な連携により活動。センターのない国では、在外公館、コーディネータ等の協力により実施。

（※）再招へい事業（BRIDGE Fellowship Program）

平成30年度採用予定数：42人

JSPSの外国人研究者招へい事業等に採用されて来日し、日本での研究活動を終了した者のうち海外研究者コミュニティ（同窓会）に所属する外国人研究者に対し、再度来日する機会を提供（平成21年度～）

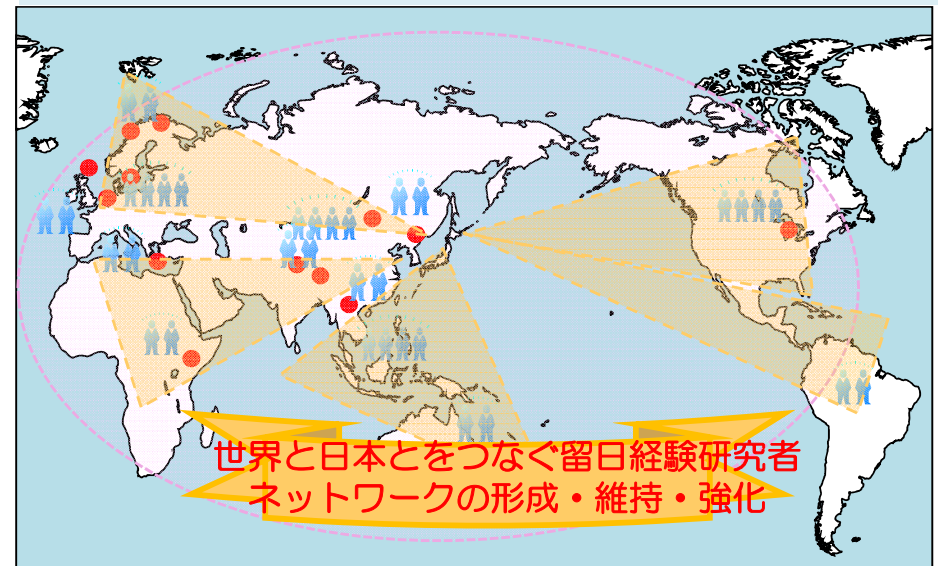
※期間：14日以上45日以下

※平成30年度支給予定経費：滞在費15,000円（日額）、調査研究費150,000円（上限）、往復航空券、海外旅行保険

約26,000人のJSPS事業経験者とのネットワークを活用

外国人特別研究員事業 約11,000人

外国人研究者招致事業 約15,000人



JSPS Researchers Network (JSPS-Net)

JSPS Researchers Network (JSPS-Net)は、JSPS事業経験者を中心とする研究者向けソーシャル・ネットワーク・サービスで、国境を越えて活躍する研究者等のネットワーク、研究者コミュニティの形成を支援します。同じ研究分野の研究者に加えて、異なる研究分野の利用者同士、同じ地域で活躍する研究者同士、それぞれの活動に関心を持つ研究者や研究支援に携わる方々がJSPS-Net上でコミュニティを形成し、ネットワーキングを行うことで、将来的な国際交流、国際共同研究への発展や、登録者1人1人が世界で活躍する一助となることを目指しています。また、若手や外国人研究者を受け入れている研究者と受け入れ先を探している若手研究者とをマッチングするサービスを提供するなど、新機能も追加しています。

主な機能

- **人的コネクション形成支援**
 - 住居地、研究分野等様々な観点からメンバー検索が可能です。
 - 人と人の繋がりをサポートするメッセージ送信・友達申請が可能です。
 - 研究者の研究生活における貴重な人脈形成をサポートします。
- **グループ機能**
 - 同じ研究分野をはじめ、異なる研究分野の利用者同士、同じ地域で活躍する研究者同士、それぞれの活動に関心を持つ研究者や研究支援に携わる方々の情報共有が可能です。また、同窓会、名簿管理としても利用可能です。
- **イベント・ページ作成機能**
 - 会員による一般イベントやグループ内イベントページの作成が可能です。
 - 周知・登録・参加者の一元管理が効率的に行え、イベント前告知メールの送信も可能です。
- **マイリサーチライフ**
 - 様々な分野で活躍する研究者自身が研究内容や研究生活を語ります。ご自身の研究分野を紹介したい方はjsps-net@jsps.go.jpまでご連絡ください。
- **Seeking early-career researcher**
 - 受入希望研究者と若手研究者とのマッチングのためのサービスを提供し、ホストとして受け入れ可能な研究者の情報を掲載しています。ホストとして受入を希望されている研究者、特に日本での研究を希望される海外の研究者のための日本での受け入れ先ホスト情報をお持ちの方はjsps-net@jsps.go.jpまでお知らせ下さい。

Access Here

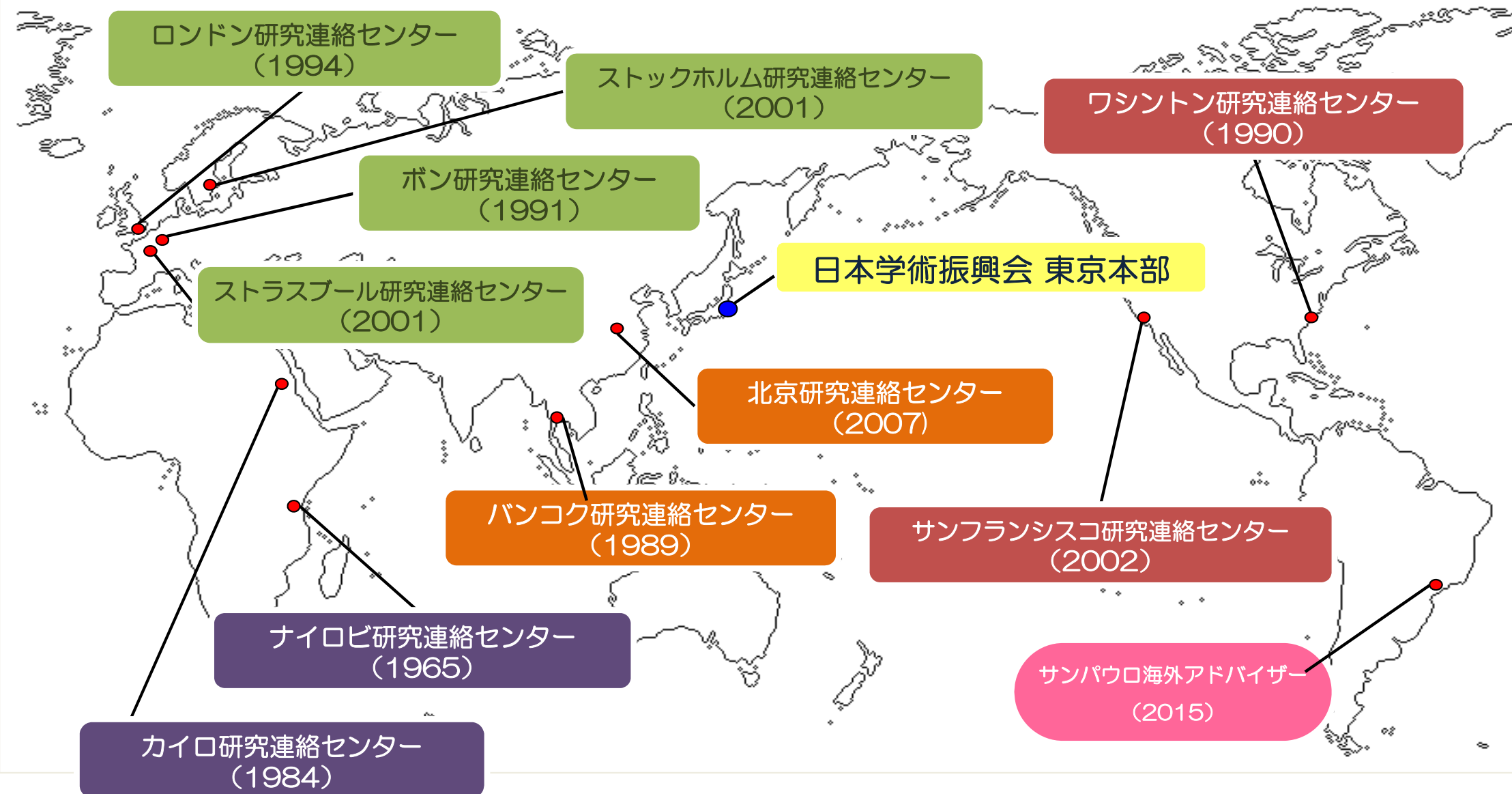


<https://www-jsps-net.jsps.go.jp/>



JSPS海外研究連絡センター

JSPSは、学術に関する国際交流における我が国と諸外国との関係強化を図るため、9か国10か所に海外研究連絡センターを設置しています。



海外研究連絡センターの主な活動内容等

ワシントン(米国)		米国の学術政策の中心地であるワシントンDC中心地に設置
サンフランシスコ(米国)		世界的な学術交流拠点であり日本の大学が多く進出しているサンフランシスコに設置
ボン(ドイツ)		ドイツ学術交流協会(DAAD)、ドイツ研究振興協会(DFG)、フンボルト財団に隣接。ドイツの学術の中心地に設置
ロンドン(英国)		英国大学協会、ロンドン大学本部などに近く、英国・アイルランド王立アジア協会と同じ建物に設置
ストックホルム(スウェーデン)		カロリンスカ医科大学(ヨーロッパを代表する医学・生物学分野の研究機関。ノーベル医学生理学賞選考機関)内に設置
ストラズブール(フランス)		日仏大学交流の促進のため仏が設置した日仏大学会館内に設置
バンコク(タイ)		東南アジアにおける学術拠点。タイ学術会議(NRCT)に近いバンコクの中心地に設置
北京(中国)		周辺に中国科学院や北京大学等の学術機関が多数立地する地区に設置
カイロ(エジプト)		中東地域におけるフィールド研究の拠点
ナイロビ(ケニア)		アフリカにおけるフィールド研究の拠点

主な活動内容

◆大学や対応機関とのシンポジウム・フォーラムの共催

◆日本の大学の組織的な海外活動展開協力・支援 ～当該国におけるネットワークを活用した交流拠点としての役割～

○センターにおける大学教職員の駐在(H30.4月現在)

- ・ロンドン(慶応大、日本スポーツ振興センター)
- ・北京(東北大、一橋大、立命館大)
- ・カイロ(上智大)

○JANET(在欧日本学術拠点ネットワーク)

ボンセンターが中心となった、在欧の日本の学術拠点の緩やかなネットワーク
ドイツや周辺地域にて、合同行事を開催

○MOU締結を目指す大学への支援や学術情報等の提供

◆招聘事業の実施・研究者コミュニティの活動支援等

◆学術情報の収集等

世界の高等教育情報・学術政策の動向の調査・収集

- ★各センターが収集した情報を、学振ウェブサイトにて随時発信、登録募集中！

「海外学術動向ポータルサイト」→
<http://www-overseas-news.jsps.go.jp/>



◆国際学術交流研修の実施

大学等事務職員の国内・海外等での実務研修

◆貴重な世界的研究フィールドで日本の学術研究を円滑に促進(中東・アフリカ)

- アフリカ地域における調査研究許可申請書等の便宜供与
- 調査データ、機材等の保管等

海外研究連絡センターの活動（例）

● シンポジウム等を通じた我が国の学術情報の発信



清華大学・CAS・JSPS
共催シンポジウム・天野教授
(2014年11月@北京)
【北京センター】



山中伸弥先生講演会・山中教授
(2017年5月@サンフランシスコ)
【サンフランシスコセンター】



Science in Japan Forum
(2018年6月@ワシントンDC)
【ワシントンセンター】

● 日本の大学の国際展開支援



JANET FORUM 2017
-Explore Research in Japan-
(2017年11月@フライブルク) 【ボンセンター】

● 海外における本会事業の実施、 広報活動



事業説明会
(2017年5月@パリ)
【ストラスブールセンター】



Pre-Departure Seminar (2017年4月@ロンドン)
【ロンドンセンター】

● 現地研究者のネットワーク構築



在瑞日本人研究者の会
(2018年4月@ストックホルム)
【ストックホルムセンター】

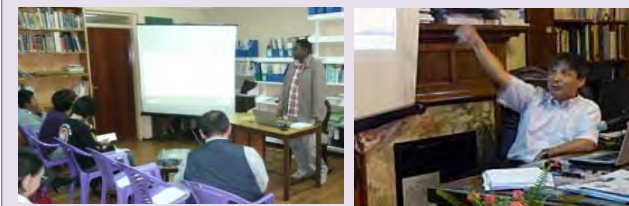


在英日本人研究者データベース
【ロンドンセンター】



JSPSドイツ語圏同窓会
との共催シンポジウム
(2018年4月@フランクフルト)
【ボンセンター】

● 地域研究を行う研究者の支援



研究会、セミナー
【左：ナイロビセンター、右：カイロセンター】

● 海外の学術動向に関する 情報収集

- ✓ 諸外国の学術動向の情報を収集
 - ✓ 各センターの所在国、周辺地域の学術の実情や動向をまとめたレポートを作成 (2014年度)
- 「JSPS海外学術動向ポータルサイト」にて公開中

国際学術交流研修（国際協力員）

1. 趣旨

大学及び大学共同利用機関（以下、大学等）の事務系職員を対象に、国内・海外研修及び語学研修の実施により、国際交流に関する幅広い見識と高度な実務能力を有する職員の養成を支援する。

2. 対象者

- （1）大学等の国際交流等担当職員（大学等採用後2年以上の者に限定）
- （2）将来国際交流業務担当を希望する職員（大学等採用後2年以上の者に限定）
- （3）その他振興会が特に認めた者

3. 公募時期等

9～10月頃、各大学等に公募の通知を発出

4. 採用

12～1月頃に面接等を行い、採用者を決定

5. 主な研修内容等

		主な研修内容	期間	身分	経費の取扱	
国内・海外 研修	国内	国際事業部内に配属され、各種 国際事業に従事	1年	各大学等 の所属	大学等負担	給与
	海外	海外研究連絡センターに派遣され、 派遣先の業務に従事	1年		大学等負担	給与
					振興会負担	渡航費・滞在旅費・海外旅行 傷害保険料等
語学研修	国内	英語及び派遣先の言語	6ヶ月以内		振興会負担	20万円を上限
	海外	英語及び派遣先の言語	原則、渡航後6ヶ 月以内			40万円を上限

諸外国の学術振興機関との連携

先進8か国学術振興 機関長会議 (G8HORCs)

(H15～)

- G8メンバー国（日本、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、ロシア、英国、米国）
- 全地球的諸問題や科学技術政策等の共通の関心事について年1回自由に討論
- 多国間国際研究協力事業（G8 Research Councils Initiative）等がここから生まれた。
- 第1回は昭和54年（1979年）西ドイツで開催。

■G8(Working Group on Research Assessment

- G8HORCsから派生したWorking Groupで各国の学術動向や研究評価の仕組、現状について意見交換



アジア学術振興機関長会議 (ASIAHORCs) (H19～)



- アジアの主要10か国（日本、中国、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム）
- アジア地域共通課題の解決と地域全体の研究水準の向上のため、参加機関間の協力関係の一層の強化を目的で開催
- 第1回は平成19年11月にJSPSが主唱し京都にて開催。平成21年の第3回（韓国・ソウル）から、各国持ち回りで開催。
- 平成21年より共同事業として、地域共通課題における若手研究者育成とネットワーク構築を目的とした「共同シンポジウム」を開催

■第9回ASIAHORCs共同シンポジウム

- 「若手研究者育成の政策（The Policy of Fostering Young Researchers）」
（平成29年9月、東京）
- 「若手研究者育成の政策」をテーマに発表・討議が行われた。



日中韓学術振興機関長会議 (A-HORCs) (H15～)

- 日本・中国・韓国
- 日中韓の学術協力強化のため各国の科学技術政策の動向や国際協力のあり方等について議論。 JSPSが提唱し平成15年より各国持ち回り開催、平成30年は9月に名古屋で開催予定（JSPS主催）
- 本会議において毎年の重要分野を設定し、「北東アジアシンポジウム」、「日中韓フォーサイト事業」を実施

■北東アジアシンポジウム

「21世紀の核物理」

（平成30年9月、日本・名古屋）

- 当該研究分野における最新情報の共有及び参加者間の国際共同研究開始へとつながるネットワーク構築を目的として実施

■日中韓フォーサイト事業

平成30年度分募集分野

「新材料イノベーション」

- 3か国を中核とし、アジアにおける世界的水準の研究拠点構築を目的とした共同研究・セミナー等の活動を支援



アフリカ学術交流コミュニティ形成 (H25～)

- JSPSのアフリカ諸国における対応機関との関係や海外研究連絡センターのネットワークを基に、アフリカの学術振興機関の間のネットワーク形成を図り、アフリカとの学術交流コミュニティの形成を目指す。
- 2014年11月に、本会、南アフリカ国立研究財団(NRF)及びナミビア国家研究科学技術委員会(NCRST)の共催により、グローバルリサーチカウンシル (GRC) アフリカサミットを南アフリカ共和国ステレンボッシュにおいて開催。



グローバルリサーチカウンスिल (GRC)

1. GRC設立の趣旨・経緯

- ◆ 全世界の学術振興機関の長によるフォーラム
- ◆ 米国科学財団NSFの提唱により、2012年5月に設立

2. GRCの目的

- ◆ 世界の学術研究の振興における共通の課題への対応
- ◆ 学術研究の振興に関するベストプラクティスの共有・対話の促進
- ◆ 国際研究協力を促進するための共通原則の確認

3. 実績

第4回年次会合(2015年5月@東京)

日本学術振興会が主催

安倍晋三内閣総理大臣からのビデオメッセージ

「科学上のブレークスルーの支援のための原則に関する宣言」・
「研究・教育の能力構築のためのアプローチに関する宣言」を採択

第7回年次会合(2018年5月@モスクワ)

「PEER/ MERIT REVIEW」及び「SCIENCE DIPLOMACY」について議論が行われ、
「PEER/ MERIT REVIEW2018の原則に関する宣言」が採択された。

第8回年次会合は2019年5月にブラジル・サンパウロで開催予定

主催:サンパウロ州研究財団(FAPESP)

共催:ドイツ研究協会(DFG)

アルゼンチン国家科学技術研究会議(CONICET)



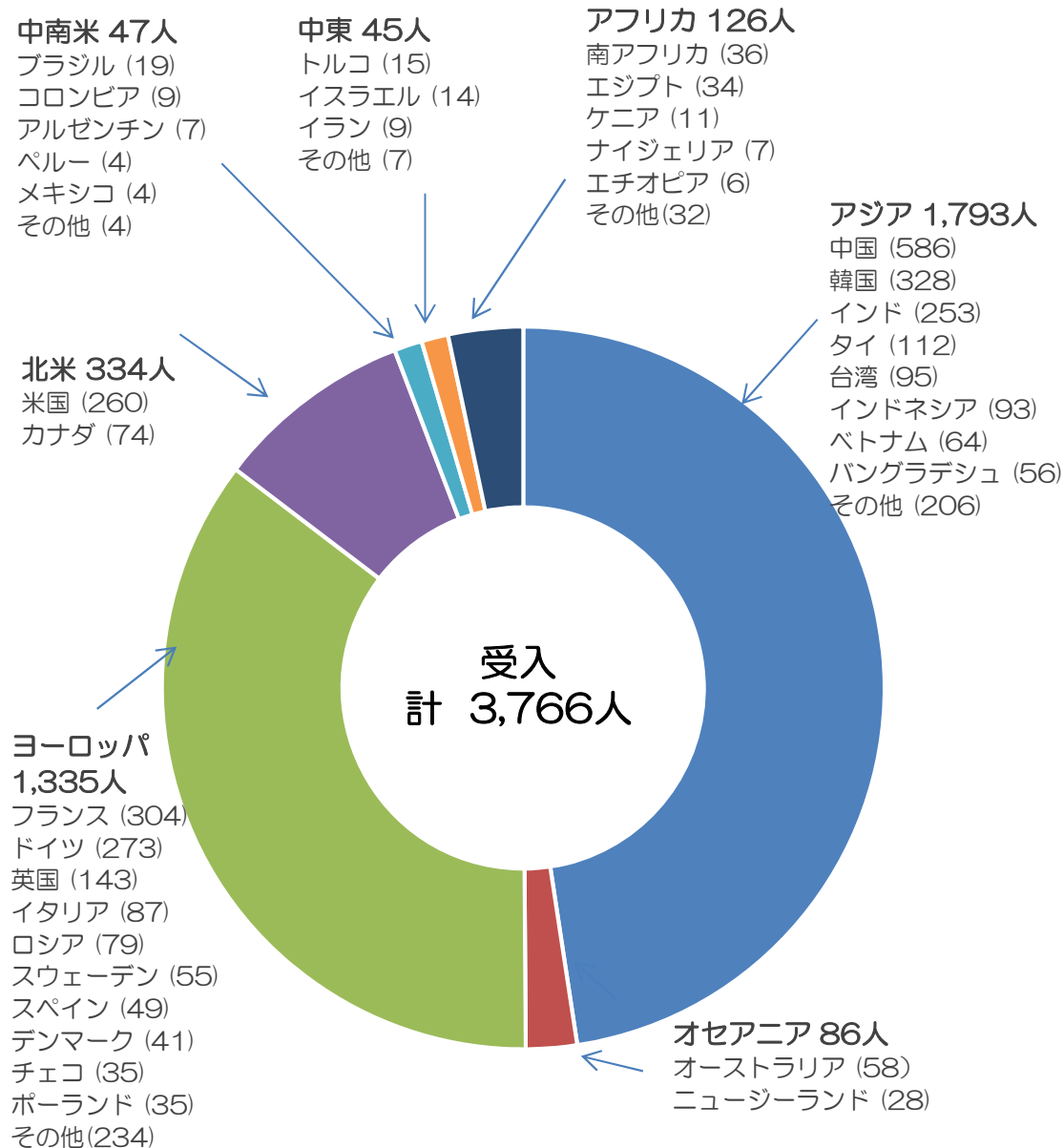
(上)(下)2015年第4回年次会合の様子



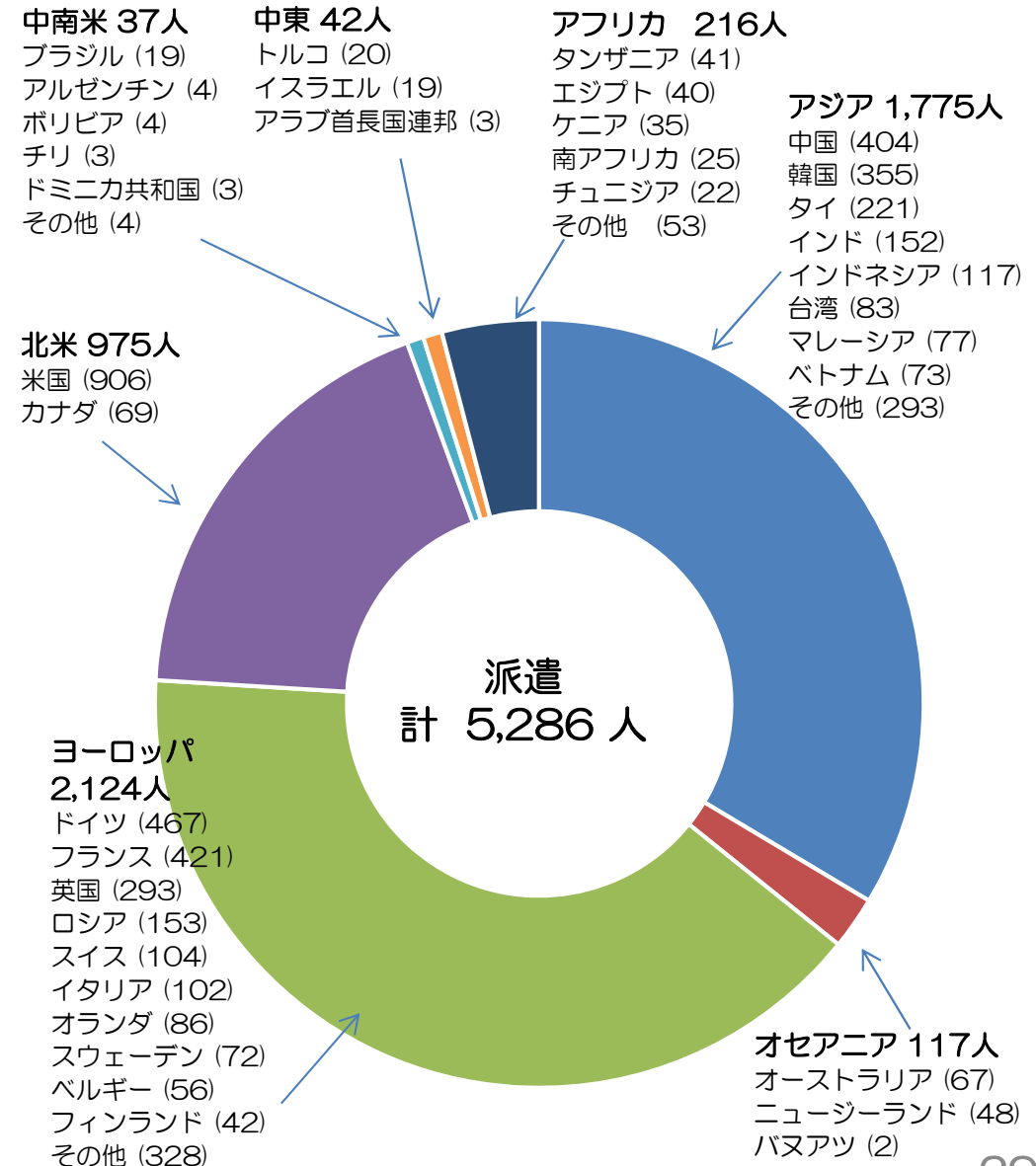
次回

JSPS国際事業の研究者交流数（H29実績）

◆平成29年度 外国人研究者の受入



◆平成29年度 日本人研究者の海外派遣



公募スケジュール

事業名	募集要項 公開時期	申請期間・締切	採択課題の 実施開始時期	(参考) H30 申請・採択状況
二国間交流事業	公開中 (例年6月頃)	2018年8月22日～ 9月5日	2019年4月1日～ 2020年3月31日 (予定)	申請 1,338件 採択 267件 採択率 20.0%
国際共同研究事業 (英国との国際共同研究プログラム (JRPs-LEAD with UKRI))	公開中	2018年8月14日	2019年1月～2月 (予定)	—
国際共同研究事業 (スイスとの国際共同研究プログラム (JRPs))	公開中	2018年9月24日～ 11月28日	2019年6月～ 2020年3月 (予定)	—
国際共同研究事業 (JRPs-LEAD with DFG, PIRE, ORA)	未定 (海外対応機関との調整による)			—
研究拠点形成事業	公開中 (例年7月頃)	2018年10月1日	2019年4月1日 (予定)	【A型】 申請 59件 採択 8件 採択率 13.5% 【B型】 申請 77件 採択 10件 採択率 13.0%
日中韓フォーサイト事業	2018年11月 頃 (予定) (例年11月頃)	2019年1月 (予定)	2019年8月 (予定)	申請 8件 採択 2件 採択率 25.0%

公募スケジュール

事業名	募集要項 公開時期	申請締切	開催時期	(参考) H29 申請・採択状況
先端科学（FoS）シンポジウム	2018年10月頃	2018年12月頃	2019年度開催（予定）	—
リンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣事業	2018年6月1日	2018年8月10日	2019年6月30日～7月5日 （物理学関連分野）	申請 29人 推薦 12人 採択 11人
HOPEミーティング	2018年6月1日	2018年8月8日	2019年3月4日～8日	申請 60件 採択 25件 採択率 41.7%

公募スケジュール

事業名	募集要項 公開時期	募集回	申請締切	採用開始	(参考) H29 申請・採択状況
外国人特別研究員 (一般)	公開中 (例年4月頃)	第1回	2018年9月7日	2019年4月1日～ 2019年9月30日	申請 2473件 採択 249件 採択率 10.1%
		第2回	2019年4月26日	2019年9月1日～ 2019年11月30日	
外国人特別研究員 (戦略的プログラム)	海外対応機関からの推薦のみ				
外国人特別研究員 (サマー・プログラム)					

公募スケジュール

事業名	募集要項 公開時期	募集回	申請締切	採用開始	(参考) H29 申請・採択状況
外国人特別研究員 (欧米短期)	公開中 (例年4月頃)	第1回	2018年10月5日	2019年4月1日～ 2020年3月31日	申請 52件 採択 214件 採択率 24.3%
		第2回	2019年1月11日	2019年7月1日～ 2020年3月31日	
		第3回	2019年4月5日	2019年10月1日～ 2020年3月31日	
		第4回	2019年6月7日	2020年1月1日～ 2020年3月31日	

公募スケジュール

事業名	募集要項 公開時期	募集回	申請締切	採用開始	(参考) H29 申請・採択状況
外国人招へい研究者 (長期)	公開中 (例年4月頃)	—	2018年9月7日	2019年4月1日～ 2020年3月31日	申請 234件 採択 70件 採択率 29.9%
外国人招へい研究者 (短期)	公開中 (例年4月頃)	第1回	2018年9月7日	2019年4月1日～ 2020年3月31日	申請 591件 採択 180件 採択率 30.5%
		第2回	2019年4月26 日	2019年10月1日～ 2020年3月31日	
外国人招へい研究者 (短期S)	公開中 (例年4月頃)	第1回	2018年9月7日	2019年4月1日～ 2020年3月31日	—
		第2回	2019年4月26 日	2019年10月1日～ 2020年3月31日	